

『市史研究いちかわ』第3号 発行！

『市史研究いちかわ』第3号を発行いたしました。『市史研究いちかわ』は、市史編さん事業の成果の一端として刊行する、年次研究報告書です。編さん事業の進捗状況を定期的にお知らせすると同時に、市川市域の歴史、民俗、産業、自然などの分野に関する研究成果を掲載しています。

《目次》

下総国戸籍と正倉院文書の関係、
報告書の制作経緯も載っています！

鼎談 「正倉院文書と下総国戸籍」

皆川完一(元東京大学教授)・

吉村武彦(明治大学大学院長・市川市史編さん委員会委員長)・

加藤友康(明治大学大学院特任教授・東京大学名誉教授)

概要:皆川氏が正倉院文書と戸籍に関するご自身の研究史を語っています

論文 「現代行徳地域史の課題」

竹内壮一(市川市史編さん委員会委員)

概要:京葉湾市川1期埋立計画とそれに連動する土地区画整理事業を地域形成の選択という視点から整理。

研究ノート 「エビスコウ習俗の再検討」

水谷類(市川市史調査編集委員)

概要:国府台で行われているエビスコウの実見をきっかけに、エビスコウ習俗を再検討した。伝承習俗の研究姿勢に対する問題提起も行われています。

研究ノート 「千葉県市川市域の江戸川河川敷の昆虫」

宮内博至(市川市史編さん調査員)・

山崎秀雄(市川市史編さん委員会委員)

概要:調査結果の報告と考察です。市川市域に生息する昆虫目録(トンボ目・カマキリ目・シロアリ目・バッタ目の一部。今号未収録の昆虫は次号収録予定)付き。

資料紹介 「中山法華経寺の板碑」

伊藤宏之(台東区文化財保護調査員)

概要:板碑は中世の卒塔婆・供養塔の一種です。平成2年に歴史博物館が発行した『市川の板碑』に未掲載の中山法華経寺の板碑を調査、その資料を掲載しています。

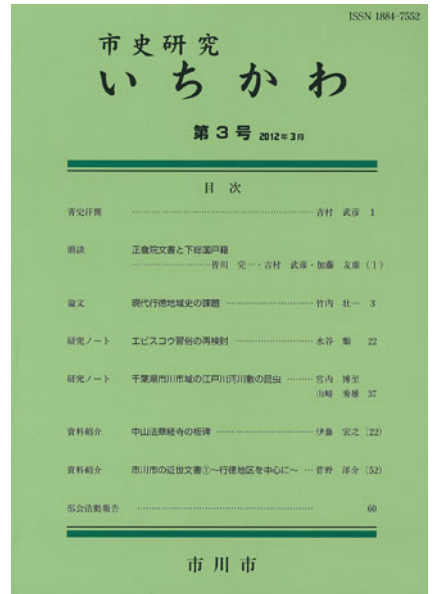
資料紹介 「市川市の近世文書(1)ー行徳地区を中心にー」

菅野洋介(市立市川歴史博物館学芸員)

概要:「本行徳村船往還番船明細帳」と「塩焼松葉之義二付仕訳上帳」の翻刻と解説。

活動報告 市川市史編さん日誌

活動報告 部会活動報告



頒布価格:700円

第4号原稿募集

『市史研究いちかわ』の発行趣旨に合致し、投稿基準に沿う、学術論文、研究ノート、資料紹介、活動報告、コラムなどであれば、どなたでも投稿できます。詳細は市史編さんHPをご確認ください。

行って知って感じて
私達のまち いちかわ [3]

いちかわしにはしもうさのくにこくふがありました。都があつた近畿地方と行き来していた船は、現在の東京湾を通過するので便利な場所でした。そのため、先に通過する市原市に国府があつた国は上総国という名称でした。下総国はいくつかの郡に分けられ、市川市域を含む葛飾郡は、東京都の隅田川辺りまでありました。両国という地名は武蔵国との国境だった名残です。江戸時代の初頭、江戸というマチがおおきくなり、江戸川より西側が武蔵国に編入されました。現在でも、市川市には葛飾八幡宮がありますし、船橋市にかつしかちょうとうきょうとかつしかくかさいちめいのこ葛飾町、東京都に葛飾区や葛西という地名が残っています。